

十二月・一月の行事予定	ジャガイモ収穫祭 12月7日(土) 13:00~ 清水JA倉庫
	親子ふれあいスポーツ教室 12月7日(土) 9:00~11:30 掃水小グランド
	草刈り十字軍 12月8日(日) 松阪市総合運動公園
	子供料理教室(小学生対象) 12月14日(土) 檜田地区市民センター
	こんにやく作り 12月25日(水) 檜田地区市民センター
	凧を作ろう! 12月26日(木) 9:30~11:30 檜田地区市民センター
	みんなで凧をあげよう! 1月5日(日)(雨天の場合11(土)) 松阪市総合運動公園

檜田川クリーン作戦

10月27日(日)、檜田川堤防沿いの清掃が行われました。自治会を始め、各企業の方々や東部中学校の生徒の皆様等、約四百名の方に参加頂きありがとうございました。皆様のお蔭で本来のきれいな堤防となりました。又、はつらつクラブの皆さんに



は、美味しい里芋汁で掃除を終えた方々の疲れを癒して頂きました。

掃水まちづくり協議会

たより

平成25年11月20日
掃水まちづくり協議会
89号



十一月十六日・十七日に、檜田地区市民センターで毎年恒例の文化祭が行われました。まず、入り口では大輪や懸崖の菊に出迎えられ、室内の展示では公民館教室や地域の皆さんの趣味の作品や生花などで秋を堪能して頂きました。又、体力測定やブリザーブドフラワー等の体験では楽しく参加して頂き、写真や手作りの品々はほのぼのとした温かさを与えて下さいました。郷土文化歴史研究プロジェクトの展示では、「地元においてもなかなかこころでは知らない。」と冊子を片手に熱心に説明を聞いていらつしやる方を数多く見受けられましたし、瓢箪工芸や干菓子等の型等、普段あまり目にしない珍しい物もあり楽しんで頂きました。展示即売では、お喋りしながら交流も深まり、「楽しい時間が

檜田地区 市民文化祭



持てた。」と好評でした。又、豊原町女性有志の会の皆様からは、「サーターアングダーの販売において、(多くの方の御協力により)完売することができました。」という御礼のお言葉を頂戴いたしました。尚、各即売会の収益金は、地域や施設へ寄付して頂きました。

じゃがいもの収穫祭に参加しよう!

日時 12月7日 午後1時受付
集合場所 清水JA倉庫
持ち物 軍手、タオル、お茶、スコップ
(持ち帰りの袋は用意します)

× 切 12月3日(火)
檜田地区市民センター 28-2675

☆収穫したじゃがいもを使った料理教室(小学生対象)
12月14日(土) 午前10時~
檜田地区市民センター 2階調理室

「掃水地区の日」は
12月25日(水)
当日のみ有効
この案内と1,000円以上お買上げの方に
20ポイントプレゼント
Aコープくしだ
営業時間 10時~21時(日曜日のみ9時オープン)

デイリー部門パート募集中
惣菜、畜産部門パート募集中

四国八十八ヶ所霊場 歩き遍路物語(三十二)

豊原町 岩塚 章

いよいよ今治に向けて、春雨の一日

第五十三番円明寺を後に、しとしとやわらかい。そして体にもつわるような春雨の昼前、次の五十四番延命寺に向って歩いてきた。何を考えて歩いてきたのだろうか。下を向いてとぼとぼと歩いてきたのだろうか。国道から免れて田舎道を歩いてきた。目の前を八十を過ぎたであろう老婆が今流行の、いや少し古びた手押し車を押して通り過ぎた。とっさに「おばあちゃんお元気でな。長生きしてな。」と伊勢寺の挨拶をしていた。いつも皆さんにお会いしたら挨拶を、この四国路を歩いて来た。その気持ちで、「お遍路さん、お遍路さん、もうこの年、お寺にお参りすることは出来ん。少しですがおさい銭にしておくれ。」

雨に濡れたその手には人生のシワが、小さい巾着、今の若い人は知らないであろう。小銭入れの布袋である。その手を出しにくそうに、その手の平に二二〇円の小銭が乗っていた。

「遍路さん少しですがおさい銭に使って下さい」

人生若い時、月給袋もう少し厚くならないかな。そんな気持ち

ちでサラリーマン稼業をやつて来た。今、遍路途中宿銭にと三万円をふところに入れて歩いてる。ふと考えた。この旅銭と老婆がおさい銭にと差し出して下さっている二二〇円の小銭とどちらが重いだろう。いや雨に濡れてさし出された小銭の方がはるかに重い。差し出されたシワの濡れた手が御仏のお寺のよに見えた。人生、生きて行くには現代人お金はなくては生きて行けない。だけどこのお寺の二二〇円が僕の目に輝いて見えた。

「おばあちゃん長生きしてな」その言葉と同時に、涙がどつどつとほほを伝った。老婆さんの目にも涙が。あゝ今日一日辛い雨の中での遍路であったが今迄長い人生の中で一番すばらしい宝をもらった。人生生きて行くにはお金は大切。しかしこの様な心と心、そのお金では買えない宝があることを知った。これが四国旅。人生の財産をもらった一日であった。

つづく



伊勢街道を歩いてみた④

【おもん茶屋】
伊賀町の通りには、江戸時代に「おもん茶屋」という茶屋があった。読んだ事はないが十返舎一九が書いた滑稽本東海道中膝栗毛の中にも書かれていて、旅人が名物の「へんば餅」を買う場面がある。



屋について聞いてみたが、残念ながら資料は何も残っておらず、分らないということであった。また、維持管理が大変で取り壊しも考えているが、歴史的に意味のある建物なので、躊躇してるとのことである。われわれとしては、無責任にも残しておいて欲しいと思うが、そんなに簡単なものではないことは十分理解できる。

『へんば餅』

現在では、小俣町のへんばやのへんば餅が伊勢の名物の一つになっている。へんば餅の「へんば」の由来は、お蔭参りで伊勢に入る最後の川・宮川を渡るため、渡し場の茶屋で乗ってきた駕籠や馬を返した場所を「返馬所」と言い、その茶屋で休みを取り名物の焼餅を食べた。その両面焼きの餅を「へんば餅」というようになったとされている。(へんばや商店のホームページ)。

両面を焼いた餅をへんば餅というのであれば、この時代には、へんば餅を売る茶屋は伊勢路のあちこちに在ったようで、それで伊勢の名物になったようである。

伊賀町には「おもん茶屋」の他に「おかん茶屋」という茶屋があり、この二軒の茶屋がへんば餅を売っていたという。

東海道上藤栗毛の文中に「櫛田というにいたる。ここにおかん、おもんといえる二軒の茶屋あり。餅の名物なり。旅人はいづれに心移るやと、おもんおかんが売れる焼きもち・・・」とあるそう。意味は、櫛田というところに着いた。ここに、おもんとおかんという茶屋があり餅が名物である。旅人はどちらの餅を買うのか(どちらの女が良いと思うのか)と、おもんもおかんもやきもちしながらヤキモチを売っている、と言うような意味か。ちなみに、この「焼もち」という言葉が現在使われている「ヤキモチ」の語源だと言う説もあるようだ。

